

1. 沖縄県漁村青少年協議会

はじめに

昭和56年6月1日付けで漁業後継者対策事業の一環として沖縄県漁村青少年協議会（本島地区9人、八重山地区5人、宮古地区5人）が発令された。本島地区と八重山地区は任期満了によるもので、宮古地区は新たに設置されたものである。

本協議会は、次代の漁村の担い手である漁村青少年グループの組織化を強化するとともに、グループ活動の自主的な運営を助長し漁業後継者の育成を図るものである。

…………… 沖縄県漁村青少年協議会設置要綱 ……………

(設 置)

第1条 漁村の青少年グループ活動の自主的な運営を助長するため、本島地区、宮古地区及び八重山地区ごとに沖縄県漁村青少年協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所 掌 事 務)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 漁村の青少年グループの漁業技術、漁業経営及び交流学习に関すること。
- (2) 漁村の青少年グループの意向の集約、活動計画の調整及び活動実績の評価に関すること。
- (3) その他漁村の青少年グループ活動の健全な育成に関すること。

(組 織)

第3条 協議会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 漁村の青少年グループの代表者
- (3) 漁業団体の役職員
- (4) 市町村の職員

(任 期)

第4条 委員の任期は、2年とする。

ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会 長 及 び 副 会 長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれらを定める。

- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会 議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(庶 務)

第7条 協議会の庶務は、本島地区にあっては、沖縄県漁業者センターにおいて、宮古地区及び八重山地区にあっては宮古支庁及び八重山支庁の農林水産課において処理する。

(雑 則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

【本島地区青少年協議会委員】

氏 名	代 表 区 分	現 職 名	備 考
知 念 良 廣	漁業団体の職員	沖縄県漁業振興基金主事	会 長
泉 川 良 夫	漁村青少年グループ代表	恩納漁業協同組合 モズク養食研究会副会長	副 会 長
長 嶺 友紀真	学職経験者	沖縄水産高等学校教諭	
大 城 光 男	漁村青少年グループの代表	糸満漁業協同組合青年部長	
当 真 嗣 健	"	国頭漁業協同組合青年部長	
新 垣 和 信	"	伊江漁業協同組合青年部長	
西 銘 仁 正	漁業団体の職員	伊平屋村漁業協同組合組合長	
仲 嶺 勝	市町村の職員	恩納村役場経済課水産係	

【八重山地区青少年協議会委員】

氏 名	代 表 区 分	現 職 名	備 考
池 田 元	漁村青少年グループの代表	八重山漁業協同組合青年部役員	会 長
玉 城 葵	市町村の職員	石垣市役所水産係	副 会 長
屋比久 清 光	学職経験者	石垣市役所水産課長	
比 嘉 康 雅	漁村青少年グループの代表	八重山漁業協同組合青年部長	
宮 里 清 吉	"	八重山漁業協同組合青年部役員	

【宮古地区青少年協議会委員】

氏 名	代 表 区 分	現 職 名	備 考
長 崎 節 夫	学職経験者	沖縄漁業経済研究会副会長	会 長
砂 川 肇	市町村の職員	下地町役場経済課水産係	副 会 長
長 間 浩	漁村青少年グループの代表	伊良部村漁業協同組合青年部長	
谷 口 光 利	"	平良市漁業協同組合 クビレゾタ、モズク研究会会長	
花 城 勇 栄	漁業団体の職員	平良市漁業協同組合販売課	

2. 昭和56年度漁業後継者対策推進事業実施状況

この事業は、沿岸漁業振興諸事業の推進とあいまって新しい知識と技術を持った漁村の人づくりが急務となっているため、漁村の青少年グループの組織化を図るとともに、組織的な学習及び交流活動を強化し漁業後継者として、地域自立経営型漁業者を育成することを目的として実施した。

(1) 本島地区

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
漁村青少年 協議会	6月22日 9月18日 11月4日	漁業者センター 国頭・村 漁業者センター	13名 15名 13名	協議会委員(8人) 専技、普及員 オブザーバー	青少年グループの意向の集約、活動計画の調整及び活動実績の評価等を行ない、事業実施方法や事業計画案を作成した。
少年水産教室 (夏期学級)	8月3日～ 8日	漁業者センター	35名	全地区の漁協組合員の子弟 (中学生)	漁村の子弟に水産に関する初歩的な知識及び技術実習を中心にした夏期学級を開催した。今回は糸満漁港(5名)、港川漁協(6名)沖繩市漁協(3名)、与那原町漁協(3名)、勝連漁協(2名)、伊江漁協(5名)、伊平屋村漁協(2名)、八重山漁協(9名)が参加、講師は水産高校教諭、普及職員、水試研究員であった。
青年水産教室	4月27日	漁業者センター	14名	恩納漁協組合員 知念村漁協 研究グループ 糸満漁協青年部	水試研究員、専技、糸満漁協青年部の指導による漁業技術の講義と漁具作成(立延縄)を実施した。終了後糸満漁協において参加者と漁協青年部との交流会を行った。
青年水産教室	9月8日	漁業者センター	28名	漁協青年部 漁協婦人部 漁協職員	沖縄県信濃連参事浦崎永行氏による「漁業協同組合の実像」と題して、各地区漁協の歴史や実状、本土の組合の状況、漁民年金制度、漁協事業報告書の見方等、幅広い体験に根ざされた講演であった。
	9月9日	名護市	33名	市町村水産係 関係機関職員	

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
青年水産教室	11月3日	糸満市	35名	漁協青年部 漁協職員 市町村水産係 関係機関職員 研究グループ	漁村青年グループのリーダー育成を目的に、午前中話し方教室、加藤泰志氏による「話し方について」の講演と実技指導、午後から喜屋武小学校校長大城藤之氏による「グループ活動について」の講演と会議のすすめ方についての実技指導があり、今後の漁協青年部活動はどうあるべきかというテーマで6漁協青年部長を中心にパネルディスカッションを行なった。
	1月28日	糸満市	57名	漁協青年部 漁協職員	沖縄気象台予報官大城繁三氏、折田栄徳氏による「漁業気象（主として冬期季節風）について」、沖縄県漁業者センター普及職員による「沿岸漁業改善資金について」と「オキナワモズクの盤状体（種）の冷蔵保存について」と題して講演があった。当日は漁協青年部、研究グループ、市町村水産係等で会場を満たし意見交換助言等があり、有意義に終えた。
	1月29日	名護市	54名	市町村水産係 関係機関職員 研究グループ	
交流学習会	12月8日	恩納村	70名	漁協青年部 研究グループ 婦人部 漁協職員 市町村水産係 関係機関職員	水産試験場八重山支場研究員、多和田真周氏による「漁類養殖について」、社団法人日本栽培漁業協会常務理事屋代勝敏氏による「栽培漁業と水産資源の管理培養対策について」と題して講演があった。当日の参加者は各漁協青年部、研究グループ、市町村水産係等でこれからの沖縄の栽培漁業についての活発な質疑応答が行なわれた。
				(全地区) 漁協青年部 研究グループ 婦人部	漁村の青壮年婦人グループの自主的な研究実績活動の成果を発表し、相互間の知識の交流と活動意欲の向上を図った。発表者は次のとおりである。 「クヒレヅタの養殖を試みて」

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
漁村育壮年婦人活動実績発表大会	11月2日	那覇市	250名	漁協職員 市町村職員 関係機関職員	平良市漁協下地支部漁業研究グループ、下里「シラヒゲウニの漁場造成と生鮮加工について」 知念村漁協志喜屋ウニ増殖研究会 大田 実 「漁業後継者としての青年部活動」 糸満漁協青年部 玉城 晃 「これからの漁業経営」 国頭漁協青年部 山城 定 継 「中層浮魚礁による曳縄漁業について」 八重山漁協曳縄研究グループ 大浜 長 弘 「婦人部活動を通して私の家庭づくり」 八重山漁協婦人部 具志堅 キヨ 「モズク料理の工夫と婦人部活動」 糸満漁協婦人部 大城 政 子
技術交流会	11月24日 ～26日	伊良部村	3名	伊江漁協青年部	浮敷網漁業を研修し今後の浮魚、特にイワシ、アジ類の漁獲方法に活用出来る見通しで5.7年には操業計画している。交流研修先は、川満総所有4.99トン船である。
特別研修	11月9日 ～18日	宮崎県	1名	糸満漁協青年部	曳縄特にマダロ用曳縄の研修をし、漁具の導入を図って青年部に展示、指導した。また併せてトビウオ延縄、タチウオ曳釣についての研修をし、青年部に報告した。研修先は宮崎県内海漁協所属富士丸で実施した。

(2) 宮古地区

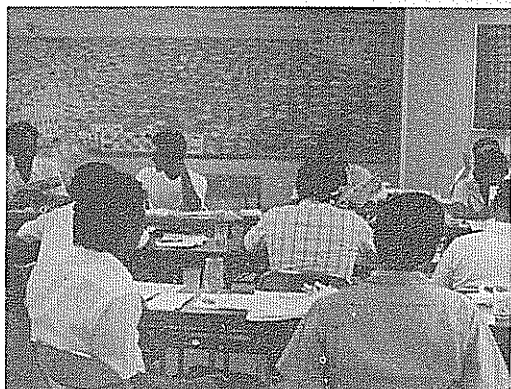
事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
漁村青少年協議会	7月16日	支庁会議室	10名	協議会委員(5人) 専技・普及員	<p>・各委員の辞令交付式が行われた後に漁業後継者対策事業及び協議会の主旨説明と昭和56年度事業実施計画の検討について協議された。</p> <p>・昭和57年度予算計画及び漁村青少年婦人活動実績発表大会について協議された。</p> <p>・昭和56年度漁業後継者対策事業業務報告と今後の協議会の進め方について協議された。</p>
	9月28日	支庁会議室	7名	委員(4人) 普及員	
	3月29日	支庁会議室	7名	委員(4人) 普及員	
青年水産教室	3月18日	平良市勤労青少年ホーム	24名	婦人部 漁協青壮年グループ	<p>・①水産加工について、県立宮古水産高等学校新里光弘先生、②オキナワモズクを主とした料理法について宮古農業改良普及所宮平エミ生改普及員、③シラヒゲウニの加工利用について県漁業者センター一知念正男所長による水産加工に関する講習会が平良市勤労青少年ホームにおいて実施された。</p>
	3月19日	支庁会議室	20名	漁協 市役所 青壮年グループ	
交流学習会	5月7日	下地漁業研究会	5名	下地、久松漁業	<p>海難事故防止を内容とする「海上安全対策について」と題して、第11管区海上保安部、平良海上保安署長福田利宜氏による講演が行われた。</p> <p>クビレヅタ(海ぶどう)の増殖についての学習会が下地、久松漁業研究グループを対象に実施された。</p> <p>日本栽培漁業協会常務理事屋代勝敏氏による「栽培漁業と水産資源の管理培養について」と題して講演があった。この学習会は漁業者、漁協グループ、市町村への栽培漁業とそのあり方についての理解と啓もうを図る意味で実施された。</p>
	5月8日	会長宅	8名	研究グループ	
	6月25日	支庁会議室	10名	普及員、水試	
	12月9日	支庁会議室	50名	漁協・漁業者 各地区漁業 研究グループ 市町村関係 機関職員	

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
交流学習会	3月25日	平良港	13名	漁協 漁業者 漁業研究 グループ 関係機関職員	講師に古川正樹氏を招いて、「潜水器具の取扱いと安全対策」についてと題して、講演が行なわれた。近年潜水器使用者の増加に伴わない事故多発の恐れがあり、その未然防止のための講演会である。
技術交流会	2月8日 ～9日	本部町備瀬崎養殖場	4名	平良市漁協 伊良部漁協 普及員	本部町備瀬崎養殖場において「ヒトエグサの養殖」についての技術交流会が行なわれた。指導は同場所長砂川氏により、①ヒトエグサ養殖の基本と手順、②収穫後の洗浄から脱水、乾燥にいたるまでの製造工程についての実技講習を受けた。
新技術実証事業 (クビレゾ ク増養殖試験)	5月～11月	与那覇湾 嘉手苅入江	5名	下地、久松漁業 研究グループ	与那覇湾と嘉手苅入江においてクビレゾタ(海ぶどう)の増養殖試験を行なった。両地域において本種の養殖に成功し産業として成立する可能性が得られた。

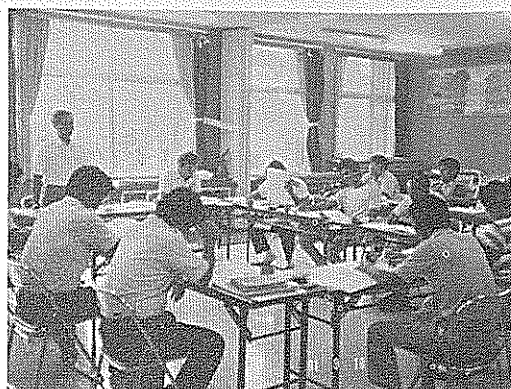
(3) 八重山地区

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
漁村	7月28日	八重山職員会館	8名	委員 4名 支庁 2名 センター 2名	青少年グループの意向の集約、活動計画の調整及び活動実績の評価等を行ない事業実施方法や事業計画案を作成した。
青少年	9月23日	八重山漁協会議室	5名	委員 3名 支庁 2名	
協議会	1月17日	" "	7名	委員 5名 支庁 2名	
	3月30日	小浜公民館	6名	委員 5名 支庁 1名	

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
交流	8月20日	八重山漁協 会議室	14名	漁協青年部 研究グループ 関係機関職員	1. 曳縄漁業の学習会 (1) 先進地（静岡・三重）視察での曳縄漁具・漁法の情報や省力化機器について学習会をもった。 (2) ジャンボ釣、潜行板、バクダン釣漁具の製作や操作方法について説明をした。 (3) 最近開発された曳縄漁業の揚縄時の省力化機器（ハマリール）について説明を行なった。 2. 社団法人日本栽培協会常務理事屋代勝敏氏による「栽培漁業と水産資源の管理培養対策について」と題し講演があり、これからの栽培漁業について参加者から活発な質疑応答が行なわれ有意義に終えた。 3. 石垣市水産課長屋比久清光氏による「漁港について」と題し、漁港の整備や計画について講演があり、特に登野城漁港の整備計画に意見が集中し、参加者から活発なる質疑応答がなされた。
学習会	12月10日 3月29日	八重山職員会館 八重山漁協 会議室	40名 20名	漁協青年部 研究グループ 市町・水試 漁協職員 市・漁協職員 青年部	本都町の備瀬崎養殖場の砂川龍夫氏による「ヒトエグサの養殖」と題し、養殖方法や技術の講演があり、その後現場での養殖地の選定についての指導が行なわれた。
青年水産教室	7月28日	八重山職員会館 名蔵湾 底地湾	30名	漁協職員 市・水試 組合員	八重山地漁村青少年協議会の事業計画であった技術交流会を次のとおり実施した。 1. ヒトエグサの養殖 (1) 養殖技術や現場での指導があった。 (2) 収穫から加工までの視察を行ない、交流を図った。



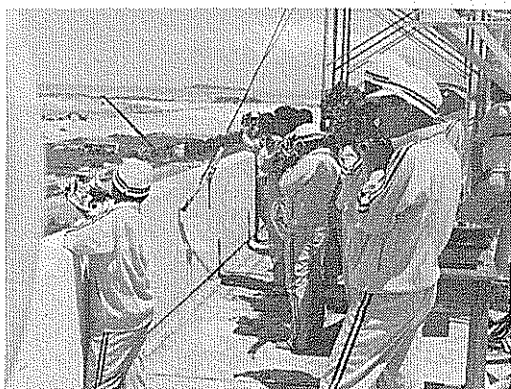
第1回漁村青少年協議会 豊後漁水産科



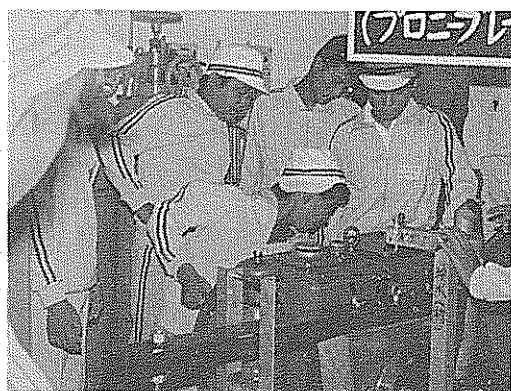
第2回漁村青少年協議会 豊後漁水産科



少年水産教室（手旗信号） 豊後漁水産科



少年水産教室（航海計器） 豊後漁水産科



少年水産教室（エンジンの取りあつかい）

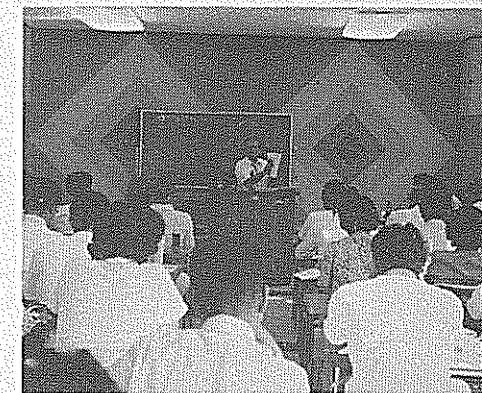


少年水産教室（カッター訓練）

本 島 地 区



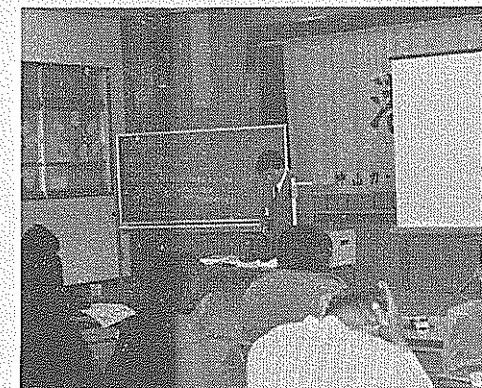
青年水産教室（漁業技術）



青年水産教室（漁業協同組合の実像）



青年水産教室（リーダー研修）



青年水産教室（漁業気象）



交流学習会



漁村若壮年婦人活動実績発表大会